

シュローダー・マルチアセット・ストラテジー・ファンド

(適格機関投資家専用)

マンスリーレター

2024年
1月号

【パフォーマンス】

運用実績 (12月末基準)	
当月	1.89%
当四半期	2.68%
2023年度	0.08%
設定来*	-6.05%

出所：NRI T-STAR

*シュローダー・マルチアセット・ストラテジー・ファンド（適格機関投資家専用）の設定日：2021年1月28日。設定日前日の基準価額を10,000として設定来を算出しています。

【基準価額・純資産総額】

基準価額	8,938円
純資産総額	8,512(百万円)

出所：NRI T-STAR

【分配金】

決算日	
2022年11月21日	0円
2023年02月20日	0円
2023年05月22日	0円
2023年08月21日	0円
2023年11月20日	0円
設定来累計	504円

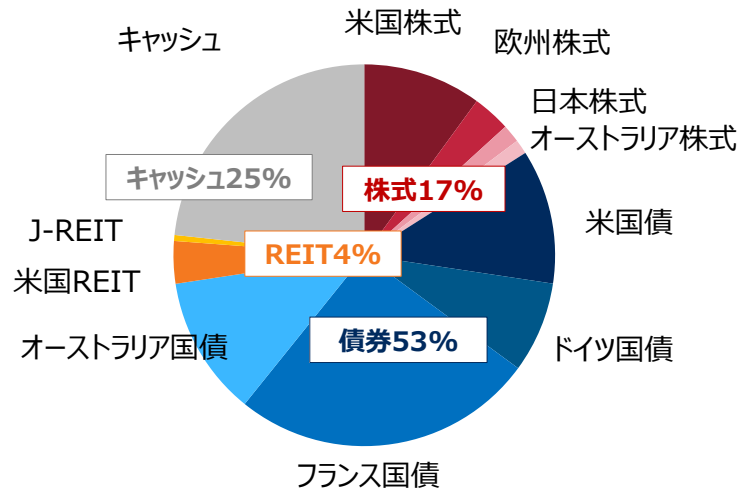
出所：NRI T-STAR

【デュレーション】

デュレーション	2.8年
---------	------

出所：BRS ALADDIN

【アセット・アロケーション】

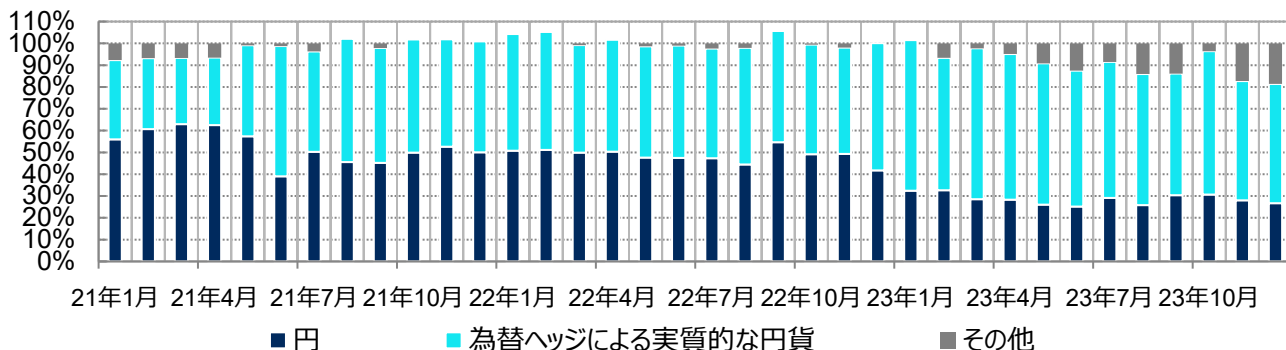


資産クラス	12月末	11月末
株式	17%	21%
米国株式	11%	13%
欧州株式	3%	3%
日本株式	2%	3%
オーストラリア株式	1%	1%
債券	53%	60%
米国債	12%	13%
ドイツ国債	8%	14%
フランス国債	28%	28%
オーストラリア国債	13%	13%
カナダ国債	-8%	-8%
REIT	4%	2%
米国REIT	4%	2%
J-REIT	1%	1%
キャッシュ	25%	17%

上記のウェイトは先物エクスポージャーを含む（四捨五入につき100%にならない場合があります。）上記の円グラフには、マイナスのエクスポージャーは含みません。

出所：シュローダー・インベストメント・マネージメント（香港）リミテッド。

【通貨配分比率の推移】



出所：NRI T-STAR

【市場概況】

12月、2024年のより早期における利下げ期待が強まったことから長期金利が低下し、金利はピークを過ぎたとの楽観的な見方が広がったことから、世界株式は上昇しました。米国では利下げ期待が支援材料となり米国株式は上昇し、株式市場をけん引しました。ユーロ圏では、欧州中央銀行(ECB)が2024年に利下げに転じるとの見方が強まり、欧州株式は上昇しました。一方、日本株式については、円高が重しとなり、小幅に下落しました。債券については、欧米での利下げ観測の強まりを背景に、主要国の国債利回りは低下しました。米連邦準備制度理事会(FRB)は、3会合連続で政策金利を据え置き、2024年の利下げ開始を示唆したことから、米国10年国債利回りは大きく低下しました。欧州では、ECBが2会合連続で政策金利を据え置き、利下げ観測をけん制する姿勢も見られましたが、市場の利下げ期待は根強く、ドイツ10年国債利回りは低下しました。

【主な投資行動】

欧州デュレーションヘッジ(ドイツ国債ショート)のポジションを組み入れ

- 欧州金利の低下を受け、リスク管理を企図して**ドイツ10年国債ショート**のポジションを組み入れ

レラティブトレードの解消/構築

- NYダウ・米国REITロング/S&P500ショート**のポジションを構築：これまで一部の大型テック株が上昇をけん引してきたが、上昇が広範囲に拡大すると考えることから**S&P500**を**NYダウ**に入れ替えたほか、2024年の利下げが見込まれることから**米国REIT**に入れ替え
- 日本株式ロング**のポジションを解消：日本株式について、長期的には魅力的と考えるが、年初来の堅調なリターンや、今後数ヵ月間で日本銀行が金融政策を調整する可能性を考慮し、**日本株式ロング**のポジションを解消
- エネルギーセクター株式ロング**のポジションを解消：**エネルギーセクター株式ロング**のポジション解消と同時に、株式組入比率を同水準で維持するため、**米国株式**と**欧州株式**の組入比率を引き上げ

【今後の資産配分と運用戦略】

米金利のピークやソフトランディングの見方は、米連邦準備制度理事会(FRB)のパウエル議長の発言の中でも示唆されています。足元における株式と債券の上昇は、ソフトランディングの見方が市場に織り込まれたことを意味し、各資産のバリュエーションの魅力度は低下しています。ただし、米国の景気後退を示す兆候は多くないことから、リスク資産に対してネガティブな見方をするには時期尚早と考えており、特に雇用の水準は引き続き、消費者の需要の支援材料となることが見込まれます。このような環境下、株式と債券の見通しを中立としています。その中で、ポートフォリオでは、レラティブ・バリューのポジションを維持しています。株式については、金利に対する感応度がより高いセクターが、出遅れを取り戻す動きとなること期待されることから、より広範な株式の上昇を捉えるポジションを取っています。債券については、カナダ国債に対して米国債を選好するポジションを取っています。

全般的には、今後数ヵ月間において、金利は安定化が見込まれ、経済成長は減速へ向かうと考えていますが、足元での市場の上昇を受け、短期的には中立の見方をしています。これらを背景に、ポートフォリオでは、各経済間の相違から生じる投資機会を捉えるため、レラティブ・バリューのポジションを活用しています。

本資料は、シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社（以下「弊社」といいます。）が設定した国内私募投資信託（適格機関投資家向け）の投資家に対する情報提供を目的として作成したものであり、いかなる有価証券の売買の申し込み、その他勧誘を目的とするものではありません。本資料は法令に基づく開示書類ではありません。投資信託の取得の申し込みにあたっては、投資信託約款の内容を十分にご確認のうえ、販売会社にお問い合わせください。弊社はお客様との投資一任契約の締結という形態にて機関投資家のお客様に運用戦略をご提供させていただきます。本資料に示されている運用実績、データ等は過去のものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。投資資産および投資によりもたらされる収益の価値は上方にも下方にも変動し、投資元本を毀損する場合があります。また外貨建て資産の場合は、為替レートの変動により投資価値が変動します。本資料は、作成時点において弊社が信頼できると判断した情報に基づいて作成されており、弊社はその内容の正確性あるいは完全性について、これを保証するものではありません。本資料中に記載されたシュローダーの見解は、策定時点で知りうる範囲内の妥当な前提に基づく所見や展望を示すものであり、将来の動向や予測の実現を保証するものではありません。市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。シュローダー/Schroders とは、シュローダー plc およびシュローダー・グループに属する同社の子会社および関連会社等を意味します。本資料を弊社の許諾なく複製、転用、配布することを禁じます。